



理 念

高齢期の方々の尊厳を踏まえ、こころ温まる医療の提供と地域から愛される病院を目指します。

基本方針

- ① 認知症疾患の特性を踏まえ、個別性の高い医療と温かみのある療養の提供
- ② 認知症に関する介護教育と啓発活動の充実
- ③ 地域の医療・保健・福祉との一層の連携と協働
- ④ 働きがいのある職場づくり
- ⑤ 職員一人ひとりが自覚し、健全な病院運営への努力

患者様の権利に関する宣言

- ① 良質な医療を平等に受ける権利
- ② 選択および自己決定する権利
- ③ 意識のない患者様および法的能力のない患者様の権利
- ④ 十分な説明を受ける権利
- ⑤ 個人情報およびプライバシーを保護される権利
- ⑥ 個人の尊厳を守る権利
- ⑦ 通信・面会を自由に行う権利

INDEX

- 表紙 福井の名所探訪③
千古の家(坂井市)
- P2 すこやか講座
「すこやかな老後のために」
- P3 家族は今
「感謝すべき“当たり前”の日常」
- P4 THE病棟
病棟のカンファレンス
- P5 デイケアだより
- P6 平成29年度 満足度調査の結果報告
- P7 講演会のご案内・
平成30年度研修案内
(一般研修)
- P8 平成30年度研修案内
(専門職研修)



すこやか講座

すこやかな老後のために…

友人と交流し、地域の活動に参加するなど、社会的なつながりが多い高齢者は、**認知症の発症リスクが46%低下する**との研究結果が発表されました（国立長寿医療センターなど）

研究チームは、2003年に65歳以上だった1万3984人を対象に約9年間健康状態を追跡調査し、社会とのつながりと認知症の発症との関係を調べました。この結果、「配偶者がいる」「同居家族と悩み相談などをする」「友人との交流がある」「地域のグループ活動に参加している」「働いている」に該当する人の場合、発症リスクはそれぞれ11～17%低下していました。すべてに当てはまる人は、当てはまる項目がゼロか1つの人と比べて46%下がることが分かりました。

研究メンバーは「**多様な社会とのつながりが認知症の発症リスクを下げる。家族の支援が期待できない高齢者も家庭の外でのつながりが予防に重要な役割を果たす可能性がある**」と話されています。

高齢になると、どうしても人との交流が少なくなります。特に男性は、定年をきっかけに引きこもりがちになるといわれています。**40歳代から定年後を見据えた仲間づくりを意識しましょう**。困った時に助け合える人間関係をつくっておくと心強いです。

趣味やスポーツのサークル・団体、町内会や自治会、ボランティア活動などで積極的に社会参加をし、人との会話を楽しみましょう。また、日々の暮らしの中で脳を活性化させることが大切です。色々なことに好奇心をもつ、旅行に行く、おしゃれをする、など活動的な生活をこころがけましょう。



家族は今…

「感謝すべき“当たり前”の日常」

K・H

私の父は、トラック運転手でした。気さくで明るい性格の父は仲間からも信頼されていました。長年勤めた運送会社を退職。その後、警備会社に就職し、慣れない仕事を7年勤め退職。最後の日、大きな花束と先生からの寄せ書きが書かれた色紙を持って嬉しそうな顔で帰って来ました。

父に症状が出始めたのは、退職直後でした。夜中に何度も起きて、トラックを取りに行くと言ったり、荷物を運ぶと言ったり…トラック運転手だった頃の言動が多くなり、母も寝つけない日が続きました。夜中に1人で自分の車を運転し富山まで向かってしまった時も、帰宅するまでが大変で気が気じゃなかったと母から聞かされた時、昔の父ではありえないこと。不安で仕方ありませんでした。父自身、最近何かおかしい、病院へ行くと伝えてくれたので、必死でどの病院がいいのか探していた時、弟の知り合いから貴院の話を聞き、受診することになりました。

診断結果は、「原因不明の認知症」そう診断されてしばらくしてから、父は車を手放す決心をしました。父の為。家族の為。理解はしていても、父の好きなものを奪うことが辛すぎて、私は大泣きしてしまいました。その後も症状は酷くなるばかり。母の入院と手術を控え、こんな状態の父を1人にすることは出来ず、貴院へ受診した際相談した所、検査が残っていることと、神経科の先生の判断もあり、入院することになりました。

入院直後、会いに行く度寂しそうな顔で1人座っている父をよく見ました。ですが、しばらく経つと1人で座っていることが無くなり笑顔でいる時が増え、周りの人達とよく話をしている所を見る様になりました。最近では、私達が会いに行くと、笑顔で「おっ！」と手を挙げ、私達が座る為の椅子を用意してくれて、「みんな元気か？」と楽しそうに話してくれます。何よりも、私達のことを心配してくれる父。私は必ず「みんな元気だよ！」と笑顔で来れなかった家族の話をします。

貴院で過ごしている父は、とても穏やかで、表情も入院前より若返った気がします。そうなれたのも、父を笑顔で優しく見守って下さっているスタッフの皆様のお陰です。本当にありがとうございます！

これから先、不安なことは沢山ありますが、ずっと“父らしく”過ごすことが出来る様、前向きに考え、病気と向き合いながら父に寄り添っていきます。



The 病棟



病棟のカンファレンス

病棟の入院患者様は様々な問題を抱えています。交代制勤務でチームケアを行っている医療の現場では、情報の共有・スタッフ間の意思統一・患者様の問題解決のためカンファレンス(会議)が欠かせないものとなっています。そこで当病院でのカンファレンスの一部を紹介したいと思います。

患者カンファレンス

病棟で生活する患者様の今後の方向性や今の問題をスタッフ間で共有して、今後のケアをどうしていくのかを話し合います。毎日行っており、一日一人をピックアップして話し合います。

総合カンファレンス

毎月一回、状態が落ち着かない患者様1名をピックアップし、多職種(医師・精神保健福祉士・管理栄養士・作業療法士・看護師・介護福祉士)が集まり、こういった治療・ケアが良いかを話し合います。

ケアカンファレンス

適宜、患者様の今後の方向性を確認する際などに行います。

患者様の家族・ケアマネージャー・退院先の施設スタッフ・精神保健福祉士・看護師が参加して治療の方向性・退院後のケアなど様々なことを話し合います。

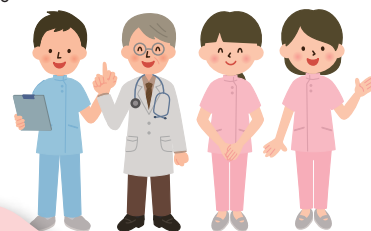
転倒・転落カンファレンス

当院では患者様の転倒転落が起きた場合、転倒・転落レポート・インシデント・アクシデントレポートに記録し、その記録に基づきカンファレンスを行い原因と対策を考えています。

対策についての情報は、毎朝の申し送りにてスタッフ全員が確実に情報を共有できるまで伝達します。

行動制限最小化カンファレンス

身体拘束・隔離の行動制限を行っている患者様がいる場合に毎日行います。その行動制限は本当に必要なのか、どうしたら行動制限を中止する事が出来るのか、行動制限に代わる他の手段がないかを話し合います。



写真はある日の

総合カンファレンス風景です。

職員はより良いケアを充実させるため積極的に意見を出し合います。



病棟ではこのように日々様々なカンファレンスを行っています。

今後もカンファレンスを通して患者様の情報(身体機能・精神機能・ニーズ)を共有し、ケアチームが皆同じ方向を向いてケアし、患者様を取り巻く環境がより良いものになるよう努力してまいります。

デイケアだより

デイケア行事

3月 春のリース作り

紙ひもで作った輪にフェルトで作ったバラと葉のパーツを貼り付けて、春のリースを作りました。ボンドでの接着に苦心しながらも、春にピッタリな色とりどりで個性あふれる作品ができました。



完成！
飾っていただけると
うれしいです☆



4月 お花見ランチ

2月の豪雪が嘘のように、今年はあっという間に中庭の桜が満開になりました。天候や気温などタイミングが計算しにくく、あっという間に散り始めてしまい…葉桜を眺めながらにはなりましたが、澄んだ空気の中、おしゃべりも弾み美味しくいただきました。



通常のメニューですが、栄養科と連携しお弁当箱に盛り付けてもらいました。見た目も良く、好評でした☆

利用者さま作品集

フェルトの加湿器作り

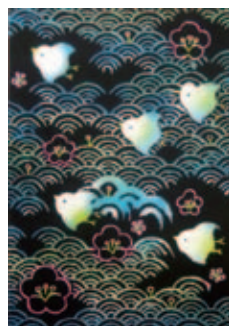
冬から春にかけて乾燥する時期です。そこで、フェルトでできる加湿器を作りました。フェルトを半分に折り、輪になっている側に1cm間隔で切り込みを入れて、丸めて輪ゴムで固定するだけです。簡単で彩りよくできました！



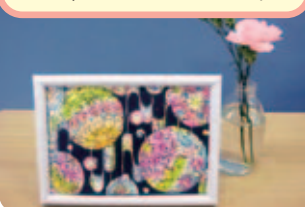
水を入れた容器の中でフェルトに吸水させるだけなので、テーブルに置いて飾っています。2色重ねても、きれいな色合いに仕上がりました！

スクラッチアート

スクラッチ（削る）絵画です。下書きされた線を専用ペンでなぞって削ると、黒い表面が削れて下絵の色が出てきます。下書き線のみを削っても良いですが、削る程に色合いが強くなるので、どこを削ると良いか考えながら取り組まれていました。削るために筆圧が必要なので、手指の運動にもなりました。



完成後は写真立てに入れて、ご自宅に飾ってくださっています。



完成しました



3月下旬に新しいデイケアトイレが完成し、新たに多目的トイレ3基が増設されました。清潔感のある白を基調に、木目の暖かさやパステルカラーの落ち着いた明るさなど、外観にもこだわりました。また、利用者さまの身体特徴（利き側など）にも合うよう、ドアの開閉方向やトイレ・手すりの設置向きにも多様性が出るような造りにしました。これまで以上に、快適にご利用いただきたいと思います。

平成29年度 満足度調査の結果報告

皆様に満足していただける病院づくりを目指すため、患者様およびご家族の方を対象とした満足度調査を実施させていただきました。調査にご協力していただいた皆様におかれましては、大変貴重なご意見・ご要望をたくさんいただき、誠にありがとうございました。この調査結果を全職員が真摯に受け止め、今後皆様にご満足いただけるような病院づくりを目指し努力してまいります。

つきましては、下記のとおり調査結果をご報告させていただきます。

調査の概要

《調査目的》 患者様およびご家族の方へのサービス向上を目指すため満足度調査を行う

《調査方法》 対 象 者：福井県立すこやかシルバー病院に通院・入院中の患者様とご家族

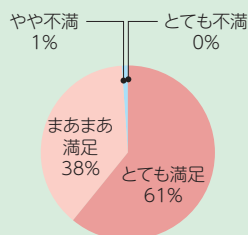
調査方法：当院で作成したアンケート用紙を対象者の方に手渡しで配布、
調査協力の得られた対象者から用紙を回収して項目ごとに分析

調査期間：平成29年9月4日～平成29年10月6日

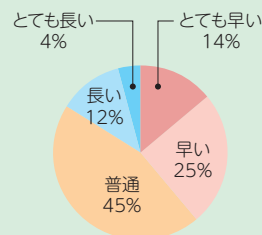
回 収 率：外来100% デイケア69.6% 入院41.9%

★外来に関する調査

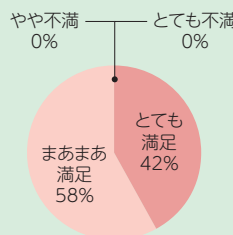
診察の満足度



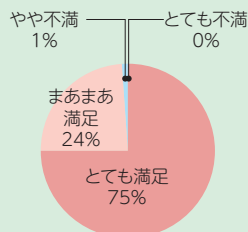
診察までの待ち時間



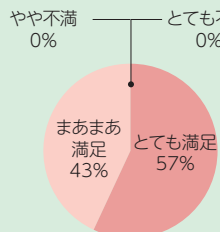
待合室の居心地



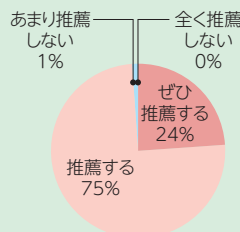
職員の言動や態度



病院内の清潔度

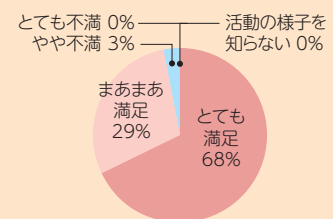


当院を他の方に紹介したいか

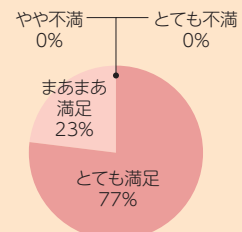


★デイケアに関する調査

活動内容

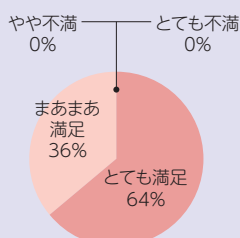


職員の言動や態度

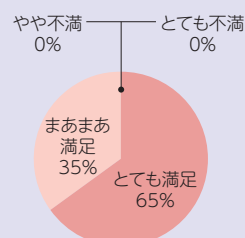


★入院に関する調査

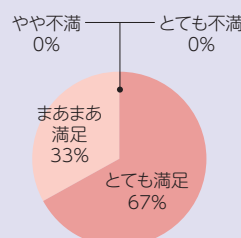
医師の説明



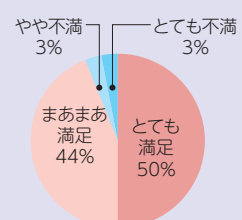
安心できる療養環境か



看護師・介護福祉士等の言動や態度



あなた(ご家族)が望んでいた治療を受けられているか



これは、アンケート結果の一部です。他の結果につきましては、エレベーター横の掲示板に貼り出してあります。
また、寄せられたご意見・ご要望についての回答は掲示板下のファイルに綴じてありますので、病院へお越しの際にご覧ください。

ペコロスの母に会いに行く

～認知症の母から教わったこと～



「初出：ペコロスの母に会いに行く」

日時 平成30年10月20日(土)
14:00～16:00

会場 福井県生活学習館 (ユウ・アイふくい)
多目的ホール [福井県福井市下六条町14-1]

講師 岡野 雄一氏 (漫画家、認知症介護経験者)

入場無料
事前申込を
お願い致します

岡野 雄一 (おかの・ゆういち)

1950年長崎市生まれ。20歳で上京、出版社に勤務し漫画雑誌編集。40歳で長崎に戻る。長崎ではタウン誌の編集長などを経て、フリーライターに。認知症を発症した母の事を描いた漫画をまとめた自費出版本がfacebookや口コミで話題が広がり、単行本『ペコロスの母に会いに行く』(西日本新聞社)出版。第42回日本漫画家協会賞優秀賞を受賞。この漫画を原作とした映画『ペコロスの母に会いに行く』は、第87回キネマ旬報ベスト・テン一位受賞。現在、西日本新聞と『週刊朝日』(朝日新聞出版)にて連載中。2014年母光江死去。91歳。老衰。

『ペコロスの母に会いに行く』『みつえばあちゃんとボク』(西日本新聞社)、『ペコロスの母の玉手箱』『ペコロスの母の贈り物』(朝日新聞出版)、『ボケて幸せな生き方:「ペコロスの母」に学ぶ』『ペコロスのいつか母ちゃんにありがとう』(小学館新書)。平成30年1月19日新刊『ペコロスの母の忘れもの』(朝日新聞出版)発行。

長崎市在住、68歳。講演会では岡野雄一さんが介護体験などを講演。誰にとっても無縁ではない認知症や、認知症の人の世界について考え、理解を深める催しとなっている。ペコロスとは小さなタマネギ。自分の頭に似ている事から、ペコロスを自称。

申込方法

①はがき

氏名、電話番号を記入し、『講演会申込』と明記の上
〒910-3623 福井市島寺町93-6
福井県立すこやかシルバー病院
までお送りください。

②FAX

氏名、電話番号を記入し、『講演会申込』と明記の上
FAX.0776-98-2793 までお送りください。

③電話 TEL.0776-98-2700



平成30年度【6月～】

福井県立すこやかシルバー病院研修案内

参加費
無料

一般の方を対象にした研修 研修場所/福井県立すこやかシルバー病院 2階会議室

一般研修はお電話でお申込みできます。お名前(フルネーム、漢字)、連絡先、参加希望研修名をお伝えください。

研修名	開催日	研修時間	主な研修内容	講師	定員
認知症の基礎知識と対応	6月15日(金)	13時30分～15時	●認知症の症状 ●認知症高齢者への介護のポイント	渡辺康絵看護師	50名
レビー小体型認知症の方の介護	7月20日(金)	13時30分～15時	●レビー小体型認知症の症状、介護のポイントについて	増田直代看護師長	50名
心も体も元気に健康に ～認知症の理解、予防、支援～	8月31日(金)	13時30分～15時	●認知症の危険因子 ●脳を鍛える対策 ●心と体を元気にする活動、実演	松間香織作業療法士	50名

9月以降の研修については、リニューアルライフすこやか夏号に掲載予定です。



平成30年度【6月～】

福井県立すこやかシルバー病院研修案内

参加費
無料

ケア専門職の方を対象にした研修 研修場所／福井県立すこやかシルバー病院 2 階会議室

専門職研修の申込方法は、当院ホームページ「介護教育のご案内」をご参照のうえお申込みください。
定員を超える研修が多いため、当院ホームページで申し込み状況をご確認ください。

研修名	開催日	研修時間	主な研修内容	講 師	定員
高齢者の排泄援助	6月1日(金)	13時30分～16時10分	● 高齢者の特性をふまえた排泄ケアの基本 ● 認知症高齢者の排泄援助の実際	福井県済生会病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山口静氏 谷本千恵子介護福祉士	70名
高齢者の食事援助	6月8日(金)	13時30分～16時	● 高齢者(認知症高齢者含む)の特性をふまえた食事援助	福井県済生会病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師 端千づる氏	70名
認知症高齢者の終末期ケア	6月18日(月)	13時30分～16時30分	● 人工的な水分・栄養補給の考え方、本人・家族の意思決定等	東京都健康長寿医療センター 研究所 研究員 伊東美緒氏	70名
介護者の表情が認知症高齢者に与える影響	6月19日(火)	14時～17時	● 認知症の方に対し笑顔で関わることの重要性について	佛教大学保健医療技術学部 准教授 白井はる奈氏	60名
レビー小体型認知症の高齢者の体験世界	6月22日(金)	13時30分～16時30分	● レビー小体型認知症のある高齢者が語った生活上の困難な体験、思い	石川県立看護大学看護学研究科 博士後期課程 加藤泰子氏	70名
高齢の統合失調症の方、せん妄の方のケア	6月27日(水)	14時～17時	● 高齢の統合失調症の方、せん妄の方に対する具体的な対応方法	福井県立病院 精神看護専門看護師 山口達也氏	70名
高齢者の口腔ケア	6月29日(金)	14時～16時30分	● 高齢者の口腔ケア ● 認知症高齢者の口腔ケアの実際	福井県歯科医師会 歯科衛生士 宮本美紀子氏 大味裕史介護福祉士	70名
暴言・暴力のある認知症高齢者の方への対応(2日間の研修)	7月3日(火) 7月4日(水)	14時30分～17時30分 9時30分～12時30分	● 認知症の方の暴言・暴力に関する具体的な対処法、適切な支援	日本で・あて推進協会 理事 水野陽子氏	70名
認知症高齢者の摂食困難と援助	7月6日(金)	13時30分～16時30分	● 認知症高齢者の摂食困難に対する援助方法について	横浜市立大学大学院医学研究科 看護学専攻 教授 千葉由美氏	70名
疼痛のある認知症の人のケア	7月13日(金)	13時30分～15時	● 痛みを訴えることが困難となる認知症の人の疼痛管理について	金城大学看護学部 講師 久米真代氏	70名
認知症高齢者が安心できる環境づくり	7月27日(金)	13時30分～16時30分	● 認知症高齢者への環境支援の具体的な内容、事例	大阪市立大学医学部 教授 白井みどり氏	70名
認知症高齢者の転倒予防	8月24日(金)	13時30分～16時30分	● 認知症の症状と転倒、認知症高齢者の転倒の特徴、転倒予防について	金沢大学医薬保健研究域保健学系 看護学領域 教授 加藤真由美氏	70名
独居生活の認知症高齢者の援助	8月29日(水)	13時30分～16時30分	● 認知症高齢者が独居生活を継続する上で必要な援助	兵庫医療大学看護学部 助教 久保田真美氏	70名
中等度・重度認知症高齢者の自己決定の機会提供	9月3日(月)	13時30分～16時30分	● 中等度・重度認知症高齢者の日常生活行動の自己決定を支える援助	県立広島大学保健福祉学部 講師 渡辺陽子氏	70名
介護職員のメンタルヘルス	9月5日(水)	13時30分～16時	● 介護職員のストレスを予防・低減するための方法	新潟青陵大学短期大学部 人間総合学科 准教授 柳澤利之氏	70名
高齢のうつ病の方、眠れない方のケア	9月7日(金)	14時～17時	● 高齢のうつ病の方、眠れない方に対する具体的な対応方法	福井県立病院 精神看護専門看護師 山口達也氏	70名
認知症高齢者の収集に対する援助	9月10日(月)	13時30分～16時30分	● 認知症高齢者の収集行動の意味、特徴、援助	県立広島大学保健福祉学部 講師 渡辺陽子氏	70名

10月以降の研修については、リニューアールライフすこやか夏号に掲載予定です。
当院ホームページ(介護教育のご案内)でもご確認いただけます。

お問合せ／福井県立すこやかシルバー病院 介護教育部 TEL (0776) 98-2700